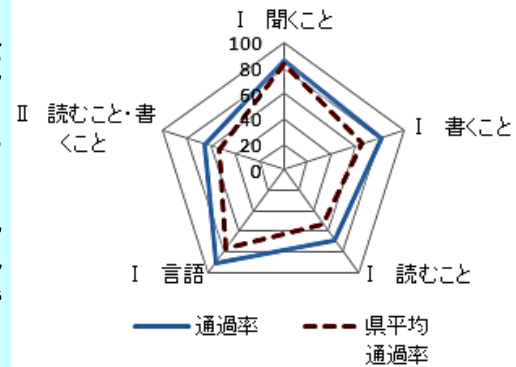
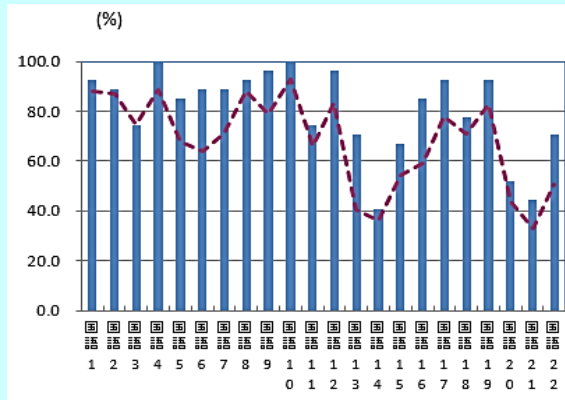


「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校80.5%, 県68.0%)

領域別平均通過率



設問1の平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向

国語の結果において、タイプⅠは84.0%、タイプⅡは64.8%の通過率となっている。県の平均通過率と比べると、すべての設問で平均を上回り、タイプⅠが12.5%、タイプⅡも12.4%上回った。基礎的・基本的な内容について定着が図られ、活用力においても一定の成果を得ていると考えられる。

○昨年度の課題への取組の成果及び課題

昨年度は、「言語」におけるローマ字の読み・書き、「読むこと」の領域、理由や事例をあげた記述に大きな課題が見られた。「言語」におけるローマ字の読み・書きにおいては、帯タイムで繰り返し習熟を図ってきたことで県平均と比較して20%前後上回ることができた。「読むこと」の領域、理由や事例をあげた記述においては、他の設問と比較すると通過率が低く継続した課題である。

重点課題

【課題1】

タイプⅠ大問3設問5(2)の通過率は40.7%であった。登場人物の心情を考える際、そのきっかけとなった行動が十分に読み取れていない。登場人物の心情を読み取る際の根拠となる行動を叙述に即して考えていくようにする必要がある。

【課題2】

タイプⅡ大問5設問3の通過率は44.4%であった。新聞の中の例文を参考に、3段落で何を書けばよいのか把握していない。何について書くのか、また、その情報が読み物のどこに書いてあるのか読み取る力を付けていく必要がある。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

【課題1】

物語文については、登場人物の心情の変化を叙述に即して読み取る活動を行っていく。根拠となる文や言葉に線を引かせ、どこに何が書いてあるからそう思うのかがはっきりとするように、根拠を明らかにして表現することを日常的に行う。

【課題2】

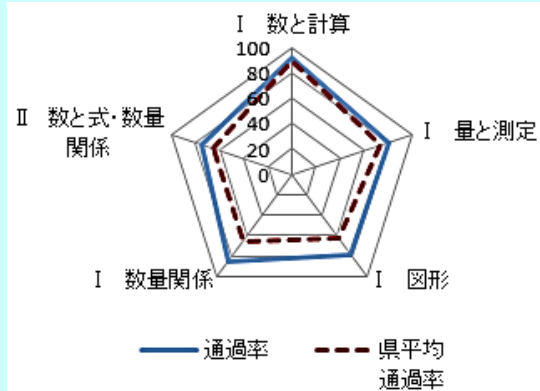
さまざまな資料から必要な情報を選び取るには、見出しを参考にし、何が書かれているか把握することとそれらに関連付けて捉えることが重要である。まずは情報量の少ない問題に当たらせ、読み取る方法を理解させてから情報量の多い問題に当たらせていく。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法					全学年 CRT標準学力調査		H29「基礎・基本」 タイプⅠ 4年
目標値					全国平均以上		80%
実施後数値							

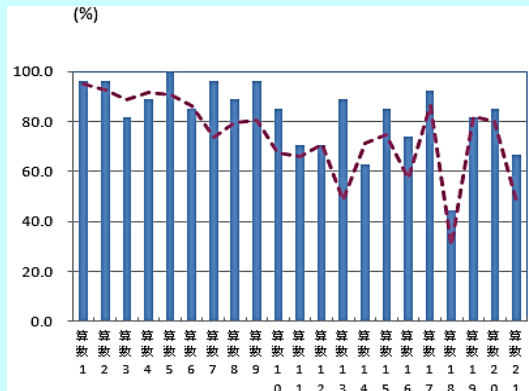
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			3, 4, 5, 6年 町学力調査問題		全学年 CRT標準学力調査	3, 4, 5, 6年 町学力テスト	H29「基礎・基本」 タイプⅡ 4年
目標値			3, 4年 80% 5年 65% 6年 50%		全国平均以上	3年 80% 4年 55% 5年 50% 6年 60%	4年 60%
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校82.7%, 県74.3%)

領域別平均通過率



年度別平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向
算数の結果において、タイプIは85.4%、タイプIIは74.1%の通過率となっている。県の平均通過率と比べると、タイプIが8.3%、タイプIIが8.7%上回った。本校の昨年度通過率と比較するとタイプIが6.3%、タイプIIが9.2%上回り、基礎的・基本的な内容の定着、活用力ともに向上が見られたと考えられる。

○昨年度の課題への取組の成果及び課題
「数量関係」領域「二つの折れ線グラフの関連付け」の設問では、H27の類似設問の通過率が31.8%、H28の類似設問で47.4%と2年連続で通過率の低さが継続したため授業改善に取り組んだが、本年度通過率も県平均は超えたものの44.4%と引き続き低い数値での推移となり、更なる取組が必要である。また、「数と計算」領域では昨年度に続き県平均は超えているが、設問ごとに見てみると6問中3問で県平均の通過率を下回っている。

重点課題

【課題1】

タイプI大問1の「数と計算」領域では昨年度に続き県平均は超えているが、設問ごとに見てみると6問の中の「2位数×2位数」「3位数÷2位数」「同分母の分数の減法」の計算問題で県平均の通過率を微量であるが下回った。計算方法は分かっているが正確に求めることができていない誤答が多い。

【課題2】

タイプII大問10(2)の通過率は、44.4%であった。県平均よりは13.7%上回ったが、昨年度からの課題として取り組んできており、引き続き継続する課題として捉える。グラフの読み方に課題がある。グラフの縦軸の目盛りの取り方によってグラフの様子が違うことを理解できていない。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

【課題1】

計算問題については、学習中だけにとどまらず、定期的に定着状況を確認するための小テストを行い、計算の方法の定着状況を確認する。また、正確性を向上させるため、帯タイムや授業始めの5分を活用して数多くの問題に取り組む時間を確保する。

【課題2】

折れ線グラフでは、縦軸と横軸の表す単位や大きさが同じなら折れ線の傾きによって変化の大きさの大小を比較することができるが、縦軸と横軸の表す単位や大きさが違う場合は単純に比較することができない。算数科でつけた知識や技能を生かし、このような違いを読み取る能力を育てられるよう、社会科や理科など、グラフから考察することの多い教科でも多様なグラフを読んだり描いたりする学習を取り入れる。

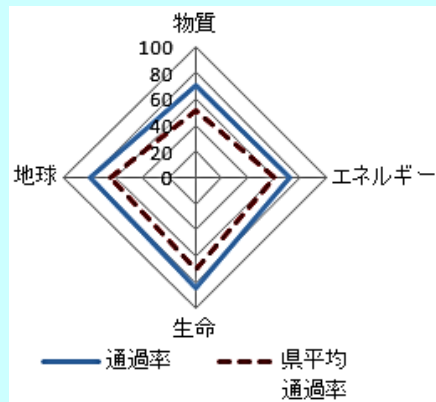
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法					全学年 CRT標準学力調査		H29「基礎・基本」 タイプI 4年
目標値					全国平均以上		80%
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			3, 4, 5, 6年 町学力調査問題		全学年 CRT標準学力調査	3, 4, 5, 6年 町学力テスト	H29「基礎・基本」 タイプII 4年
目標値			3, 4年 80% 5年 75% 6年 55%		全国平均以上	3年 80% 4年 65% 5年 55% 6年 60%	4年 70%
実施後数値							

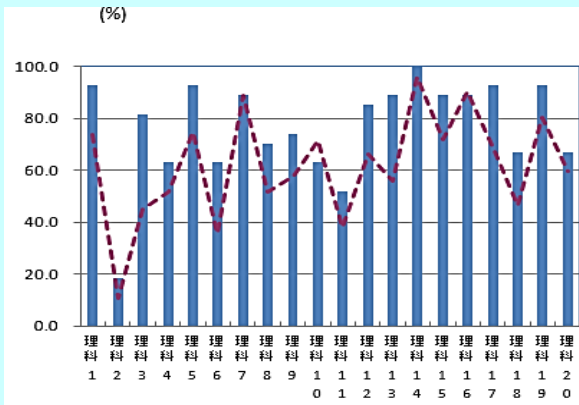
指導方法等の改善計画について〔理科〕

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校76.5%, 県61.7%)

領域別平均通過率



理科JASTA標準



本年度の結果について

○全体的な傾向

理科の結果において、タイプⅠは84.8%、タイプⅡは66.3%の通過率となっている。県の平均通過率と比べると、タイプⅠが14.4%、タイプⅡが15.3%上回った。本校の昨年度通過率と比較するとタイプⅠが2.4%下回っているもののタイプⅡでは10.9%上回り、基礎的・基本的な内容の定着を維持しつつ、活用力の向上が見られたと考えられる。

○昨年度の課題への取組の成果及び課題

昨年度、課題として挙げている「物質」領域の平均通過率は、県平均通過率を上回り、本校のH28と比べても10pt以上上回った。しかし、同領域の空気の性質について適切な検証方法を選択する問題においては、通過率が県平均を上回ったものの、昨年度に引き続き低い数値を示しており、活用力が問われる問題には、依然として課題が残っている。

重点課題

【課題1】

タイプⅠ大問5(1)の通過率は、51.9%であった。観察したいものを手にとった時の虫眼鏡の使い方が理解できていない。

【課題2】

タイプⅡ大問1(2)の通過率は、18.5%であった。二つの予想から、空気の性質を検証するための方法を選択することができていない。児童の多くは「押し棒で押した方向にのみ空気を押す力ははたらく」という既有概念をもっていると捉えられる記述が多く見られた。そのため、正しい予想でもある「いろいろな方向に押し返す力ははたらく」という考えを検証するための方法に目を向けられなかったと思われる。検証方法を立案する力とともに、実験後にもものの性質を正しく結論付けていくことが課題である。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

【課題1】

器具や機器の適切な操作方法を指導するとともに、一人一人が操作する場面をより多くもつことができるよう時間や機会を確保する。

【課題2】

問題解決の過程に沿って授業が進められるよう授業改善していくとともに、それぞれの単元や観察・実験において、問題解決の過程におけるどの場面に重点をおいて授業を進めるのか明確にした授業作りに取り組む。その中でも、検証方法の立案については、児童にしっかりと予想をもたせ、その予想や仮説に基づいて検証方法を立案し、立案した実験の結果を予想するという実験前の一連の展開の一つ一つを関連付けて考えさせることにより、科学的なものの見方や考え方の育成を図る。

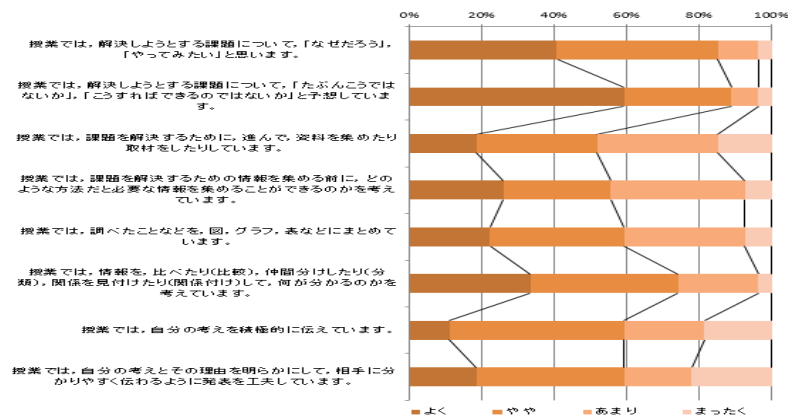
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法					全学年 CRT標準学力調査		H29「基礎・基本」 タイプⅠ 4年
目標値					全国平均以上		80%
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			3, 4, 5, 6年 町学力調査問題		全学年 CRT標準学力調査	3, 4, 5, 6年 町学力テスト	H29「基礎・基本」 タイプⅡ 4年
目標値			3, 4年 80% 5年 70% 6年 55%		全国平均以上	3年 80% 4年 55% 5年 55% 6年 60%	4年 60%
実施後数値							

質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査）

(1) 生活・学習

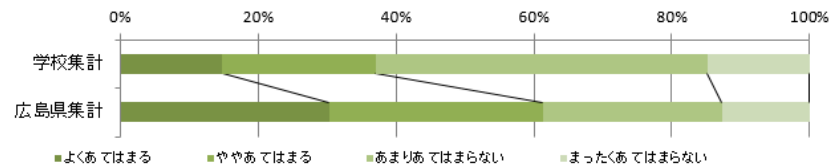
「課題発見・解決学習」(1)



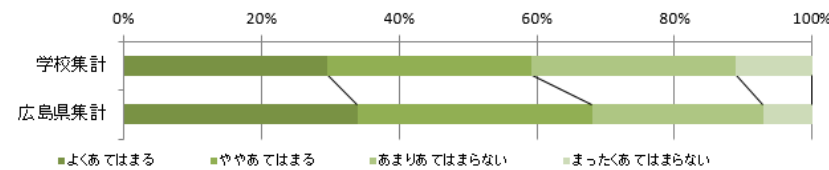
児童の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
質問(15)「授業では、課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材をしたりしています。」の肯定的評価が51.9%であった。中でも「よく」は18.5%と低く、課題を解決するために進んで情報を集めようとする、主体的に学ぶための手立てについて課題があることが分かった。	情報の収集は、自分が知りたいことは何かははっきりしていることと、それについてもっと知りたいという欲求がなければ十分にはできない。情報収集の必要感をもたせる学習展開の工夫とともに、方法の選択ができるよう、教師の役割を情報提供から情報収集支援へと切り替え、児童が主体的に学ぶための学習環境を作る。	4・5年	60%	児童質問紙	2月		

(2) 教科

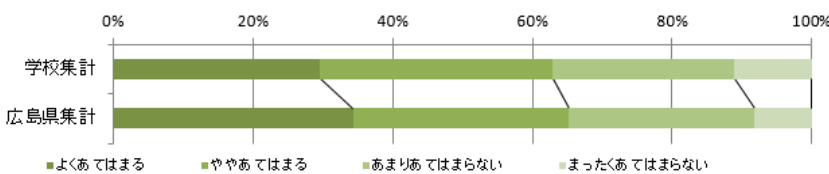
国語の授業では、分からない言葉や漢字は、辞書で調べています。



算数の授業では、とき方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。



理科の授業では、自分の考えをまわりのひとに説明したり発表したりしています。



	児童の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	肯定的評価が県平均69.5%と比べ37.0%-32.5pt低い。表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べることに課題がある。	読解力や表現力を高めるため、意味の分からない言葉や漢字を国語辞典や漢字辞典を使って調べる習慣を身に付けさせる。辞書はいつでも使えるよう常時手元に置き、特に初見の読み物に対しては分からない言葉や漢字に線を引いて調べる時間を確保する。	4・5年	65%	児童質問紙	2月		
算数	肯定的評価が県平均68.0%と比べ59.3%-8.7pt低い。既習事項や資料などから考えの根拠を捉えることや、考えを書くことや話すことなど表現するためのスキルが身に付いていなかったり、自信がもてていなかったりすることが課題である。	根拠となる資料の読解や活用、伝え方等の具体的な方法を書き方や話型を交えながら体験的に学ぶ場の設定とともに、自信をもつことができる形成的評価を行う。	4・5年	70%	児童質問紙	2月		
理科	肯定的評価が県平均65.2%に対して63.0%と県平均より-2.2pt低い。実験や観察後の活動において、考察や発表の仕方が分からず、活動が十分に機能していない状態であると考えられる。	考察の場面で自分の考えがもてるよう、問題に対して予想や実験結果の予想等、見通しをしっかりとって観察・実験に取り組みせ、観察・実験の結果を予想と比較しながら問題と関係付けて考察させるようにする。考察時の考えのまとめ方や発表の際の話型のモデルも提示する。	4・5年	70%	児童質問紙	2月		